

令和4年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

## 1 附属高等学校平野校舎の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

### (2) 所在地

大阪市平野区流町 2-1-24

### (3) 学級数・収容定員

9学級（1学年3学級） 収容定員 360人（1学級40人）

### (4) 幼児・児童・生徒数

359人（男子147人・女子212人）

### (5) 教職員数

校長(併任)1、校舎主任(併任)1、副校長1、主幹教諭1、指導教諭1、教諭19(うち任期付教諭1)、養護教諭1、中学校併任教諭2、非常勤講師14、ALT1、事務補佐員5、用務員2(うち中学校併任1)

## 2 附属高等学校平野校舎の特徴

1学年3クラスの小規模校である特徴をいかし、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い学力の向上、自主自立の精神の涵養に取り組む。文部科学省の「ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業・拠点校」に指定され、国内外の高校や大学、関係機関と連携したカリキュラムとあわせて、多様性を尊重し、グローバルな課題解決に向けて行動するイノベティブなグローバルリーダーの育成に取り組んでいる。

## 3 附属高等学校平野校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と連携し教育研究に取り組むとともに、平野五校園の共同研究を進める。
- (2) 本学の教育実習機関として実習生を受け入れ、適切な指導を行う。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てる。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担う。

## 4 附属高等学校平野校舎の学校教育目標

- (1) 学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成
- (2) 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成

## 5 附属高等学校平野校舎の学校教育計画

### ○学校教育計画

- (1) 「課題解決力」や「語学力を含むコミュニケーション力」、「多文化理解力」、「セルフマネジメント力」を身につけたイノベティブなグローバル・リーダーを育成する。  
今年度：WWL事業の成果と課題を明確にし、21世紀型学力向上の視点から検証する。
- (2) 生徒が、様々な困難を乗り越えて、自己の分析に基づいて描く自分になるうとする力を養う教育活動を推進する。  
今年度：生徒理解に基づき、きめ細かな進路指導を行う。教職員が授業力向上に組織的に取り組む。
- (3) 生徒に「自他の生命を尊重し、協働する力」を育む。  
今年度：授業やWWLの活動、学校行事など様々な教育活動を通して、互いを尊重し協働しながら課題解決していく力を育む。

6 附属高等学校平野校舎 令和4年度重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	(1)学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 (2)国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成
学校教育計画	(1)「課題解決力」や「語学力を含むコミュニケーション力」、「多文化理解力」、「セルフマネジメント力」を身につけたイノベティブなグローバル・リーダーを育成する。 ・今年度：WWL事業の成果と課題を明確にし、21世紀型学力向上の視点から検証する。 (2)生徒が、様々な困難を乗り越えて、自己の分析に基づいて描く自分になろうとする力を養う教育活動を推進する。 ・今年度：生徒理解に基づき、きめ細かな進路指導を行う。 教職員が授業力向上に組織的に取り組む。 (3)生徒に「自他の生命を尊重し、協働する力」を育む。 ・今年度：授業やWWLの活動、学校行事など様々な教育活動を通して、互いを尊重し協働しながら課題解決していく力を育む。

年度重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (*評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏 まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)WWL事業の 成果と課題を明確 にし、21世紀型学 力向上の視点か ら検証する。	グローバル・リーダー に必要なリーダーシ ップや主体性・コミュ ニケーション力を育成 する。 ①各学年での調査結 果の分析・評価 ②「グローバル探究」 での研究成果の発信 ③興味関心が高い生 徒の活動の保障と充 実	①各学年で実施するPROG-HやAAR調査の結 果から、本校が育成を目指すグローバル・リーダ ーに必要ないくつかの資質・能力が、3年間で伸 長していることが確認できている。 ②「グローバル探究」の研究成果について、校外 での発表件数・受賞件数が。それぞれ昨年度よ り増加した。 ③放課後の「グローバル探究プラス」の活動に参 加する生徒数が増え、高校生国際会議の企画や English Salonの活動が活性化している。	①大阪教育大学のアセス メントグループの教員と定 期的に協働し、調査結果 の評価と考察を進めた。 ②生徒の研究に対する外 部人材(大学留学生等)に よる指導・助言、意見交換 の機会を充実させた。 ③「グローバル探究」と「グ ローバル探究プラス」の情 報共有を定期的に行った。 English Salonの内容を外 部講師と共に再構築した。	A	①～③ WWL事業の取 組について、WWL運営 指導員会並びに検証委 員会において高い評価 を受けた。 ②取組を一層活性化さ せるため、学習者であ る生徒と教員が協働し て「グローバル探究」や 「グローバル探究プラ ス」のカリキュラムをつ つていくとよい。	A	「グローバル探究」の 各学年のカリキュラム を、あらためて3年間 の系統的な視点で見 直し、整理する。また、 「グローバル探究」の カリキュラムや授業内 容を生徒と協働して計 画・運営するなど、生 徒の意見を一層反映さ せながら授業づくりに 取り組み、成果を評価 する。

<p>学校設定教科「データサイエンス基礎」と「グローバル探究」の横断的な取組を行う。</p>	<p>昨年度の課題(データに基づいた探究の充実を図ること)を踏まえ、授業担当者間で連携しながら授業内容を再検討した。その結果、「グローバル探究」の研究活動において、データを踏まえた考察が多く見られるようになった。</p>	<p>双方の授業担当者間で、生徒の成果物等を共有し点検するなど、連携しながら指導した。</p>	<p>B</p>	<p>生徒の研究成果のポスターを見ると、データを踏まえた考察が多くなっている。</p>	<p>A</p>	<p>生徒の活動の中から、データを踏まえた考察の場面を抽出・分析し、授業計画や指導に反映する。</p>
<p>学校外の学びの場を計画、実行する。 ①高校生国際会議 ②海外研修 ③2年生研修旅行</p>	<p>①高校生国際会議の開催にあたり、目標として掲げた「本校の生徒が中心となって連携校と協働し、生徒主体で企画・運営すること」が達成できた。特に生徒が企画したワークショップや講演会は、参加者から高い評価を得た。また、本年度の課題を検討し、次年度の企画・運営に向けた改善にも取り組み始めている。 *参加した国内外の高校生の事後アンケートでは、「全体の満足度」が67%(昨年度より15ポイント増)、「ワークショップの満足度」が87%であった。 ②「カンボジア研修」及び「ニュージーランド研修」が計画通り実施できた。「カンボジア研修」には54名が参加し、現地NPO等での研修を予定通り行った。教員間連携の一つとして、初めて本校教員がバイオン中・高校の高校生に授業を行い、今後、両国の教員間で情報交換していく体制ができた。「ニュージーランド研修」には18名が参加し、初めてエルズミア高校を訪問し、生徒間の交流を行うことができた。 *カンボジア研修参加生徒の事後アンケートでは、「全体の満足度」が100%、「今後の探究活動に役立つ」が98%であった。 ③「2年研修旅行」は感染症の状況から、行き先をベトナムから九州に変更し、現地大学の留学生と、2日間に亘る交流並びに「グローバル探究」の探究テーマに関する意見交換を行った。その後の探究活動の方向性や方法等について、多くの生徒が様々な示唆を得ることができた。</p>	<p>①高校生国際会議の運営については、オンラインを活用しながら国内外の連携校との連絡・調整を早期に始め、生徒が、昨年度の課題を踏まえつつ企画・運営できるよう支援した。 ②海外研修では、オンラインを用いた現地関係機関との複数回の打合せにより、新しい取組を行った。 ③留学生との意見交換を充実させるため、事前学習に時間を確保した。</p>	<p>A</p>	<p>①高校生国際会議の内容が充実しており、参加者の事後アンケートの結果も良好である。 ②参加者の事後アンケートでも満足度が高い。カンボジアでの現地生徒に対する授業は本学のWWLの趣旨に合致し、今後継続するとよい。 ③事後アンケートでも高い満足度が示されている。</p>	<p>A</p>	<p>①海外の高校生との交流を拡大させる方策を検討する。参加者(高校生)の満足度をさらに高める工夫を講じ、成果を評価する。 ②「カンボジア研修」でのバイオン中・高校、「ニュージーランド研修」でのエルズミア高校との連携の充実を図るため、その内容を検討する。 ③「2年研修旅行」を海外で実施する。その際、海外連携校の高校生と「グローバル探究」での協働が進むように計画・実施し、成果を評価する。</p>

<p>(2)・生徒理解に基づき、きめ細かな進路指導を行う。</p> <p>・教職員が授業力向上に組織的に取り組む。</p>	<p>多様な進路選択が可能になるように進路ガイダンスを充実させる。</p>	<p>・各学年の年間指導計画に基づき、生徒及び保護者対象のガイダンスを、進路指導主事が中心となりそれぞれ実施した。また、外部講師や卒業生によるガイダンスのほか、PTAと連携したガイダンスも予定通り実施した。</p> <p>・第3学年では、学年教員と進路指導主事が協働し、個々の進路に関する相談機能や指導体制を強化するとともに、個別の面接指導や論文指導を充実させた。</p>	<p>第3学年の指導計画、指導体制を見直し、昨年度より早期に、また、組織的に指導するようにした。</p>	B	<p>進路指導に関わる情報をさらに積極的に収集・共有し、教科指導や進路指導に活用していくことが重要である。</p>	A	<p>進路指導に関わる情報収集と、効果的な生徒・保護者への発信を進める。また、収集したデータを教科指導や進路指導に反映させ、成果を評価する。</p>	
	<p>探究活動のポートフォリオを進路実現に生かす取組を行う。</p>	<p>・本年度初めて実施する3年「グローバル探究Ⅲ」の授業カリキュラムを整備した。多くの生徒が、進路選択や総合型選抜入試等でその学習を生かすことができた。</p> <p>・実施後、次年度に向けて、成果と課題を検討した。</p>	<p>第3学年教員と進路指導主事が毎週打合せを行い、授業計画と教材の整備を進めた。</p>		A	<p>次年度以降も、カリキュラムや教材の検討を継続し、改善していくことが重要である。</p>	A	<p>本年度の成果と課題を踏まえ、進路選択やそれぞれの進路実現に資するカリキュラムや教材の整備に取り組む。</p>
	<p>新学習指導要領に対応した授業及び評価の研究、並びに、定期考査や課題等の改善、データに基づく体系的な指導を行う。</p>	<p>・探究活動を導入した各教科の授業改善と実践に取り組んだ。本校主催の「課題研究研修会」(11月)では、国語科、英語科が探究活動を組み入れた研究授業を公開し、参加した学校関係者とともに、教科指導における探究活動について協議した。</p> <p>*参加者の事後アンケートでは、「発表内容が探究学習の指導に役に立つ」及び「授業に関する発表はわかりやすかった」についての肯定的意見が100%であった。</p> <p>・本年度より実施された学習指導要領の主旨を反映した各教科の授業及び評価方法(定期考査や小テスト、実験や実習、パフォーマンス課題、授業に望む姿勢等をもとにした学力の3観点の評価等)の改善に向けて、昨年度に引き続き校内研修を行い、各教科及び全校的な検討を進めた。</p>	<p>大阪教育大学の教員による研修等を実施し、共通の課題意識のもとで授業研究等に取り組んだ。また、平野五校園共同研究での取組と成果も活用しながら進めた。</p>		B	<p>各教科の目標や特色を踏まえた探究のあり方をさらに研究し、教員間で共有しておくとい。</p>	A	<p>・各教科の年間授業計画を可視化して全教員で共有し、教員間の連携・協働を活性化させる。</p> <p>・各教科で行う評価を共有しながら具体的課題を抽出する。</p> <p>・研究主任が中心となって研修を継続する。</p>

(3)授業やWWLの活動、学校行事など様々な教育活動を通して、互いを尊重し協働しながら課題解決していく力を育む。	生徒が主体となって考え、判断し、実行する力を育む場を作り、指導・支援に関する意識を教員間で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教科」「グローバル探究を中心としたWWLの活動」「学校行事」等、様々な教育活動において、主体的に判断し行動する力を育む場を設定した。</li> <li>・文化祭、体育祭、球技大会等の学校行事は、生徒会や各委員会等の生徒が中心となり企画・運営された。</li> <li>・一人ひとりを尊重する態度や、自主自立の精神、公共の精神を醸成するため、生徒指導部や人権教育推進委員会が連携し、人権や多様性の尊重について、また、地域と学校、社会と個人の関係について考える機会を設けた。</li> <li>・学校安全主任が中心となって、平野五校園や警察・消防、地域と連携しながら防犯・防災訓練を実施し、学校安全や危機対応に関する意識を高めた。</li> </ul>	生徒指導部、各委員会、学年等が担当する授業や学校行事、諸活動等において、生徒の主体性や思考・判断・実践できる場面を意図的に設定しながら指導・支援にあたった。	B	人権意識や多様性への理解が深められるよう、すべての教育活動を通して全校的な取組を続けていくことが重要である。	B	本年度の取組の課題を教員間で共有する。次年度は、各担当部署がその改善に向けた取組を計画・実施し、成果を評価する。
	生徒が、学校行事ごとに振り返る機会を設け、自己の成長を把握し、改善点をもとに目標を明らかにさせるよう指導する。	文化祭、体育祭、球技大会等の学校行事について、生徒会や各委員会が課題の検討を進めており、次年度に向けた様々な改善策が検討・提案されている。	生徒会や各委員会での議論が進むよう指導した。また、実施後の生徒の振り返りの内容を教員間で共有した。	生徒が中心となって学校行事を運営していること、また、そのことが引き継がれていることがうかがわれる。	A	生徒が中心となって学校行事を運営していること、また、そのことが引き継がれていることがうかがわれる。	A